

埼玉県・オハイオ州スカラシップ<語学・大学留学コース>

令和3年度派遣レポート 11月

「学期末及び感謝祭について」

令和3年度奨学生 塚林光ジョナサン

日本におけるリサイクルの紹介

フィンドレー大学の環境安全・労働衛生の講義にて、日本のリサイクルについてプレゼンテーションを行う機会がありました。このプレゼンテーションでは、福井県からの留学生と一緒に日本におけるごみ処理に関連した慣習、それぞれの地域のごみ処理やリサイクルについて紹介しました。私は埼玉県の『彩の国エコぐるめ事業』や県内の自治体のごみ分別、そして日本独特の精神である『もったいない』精神を紹介しました。また私はこのプレゼンテーションを通して「環境保護や廃棄物削減のために、どれだけ利便性を犠牲にする気があるか。」をフィンドレー大学の留学生以外の学生たちに向けて問いかけました。

学生たちとの対話を通して日本とアメリカにおいてゴミに対する認識に大きな差があることに気づきました。例えば、日本ではなかなか見かけないゴミ箱ですが、アメリカでは様々な場所に置かれています。そのため、日本では外出先でゴミを増やさない努力が必要と説明すると非常に驚かれました。

日本語プログラムの卒業パーティー

日本語を専攻していた学生の卒業を祝うパーティーに参加し、トリビアクイズ大会行ったり、日本の卒業ソングを歌ったりしました。クイズは私と日本文化クラブの会長で作成しました。クイズ形式は『ジェパディ!』を採用しました。このクイズ形式は日本ではテレビ番組『クイズグランプリ』で採用されています。例えば、出題者が「それは日本で最も高い山です」と事実に基づいた形式で出題し、回答者は「富士山とはどのような山でしょうか?」と回答するようなものです。その後、卒業生の日本語のスピーチがあり、フィンドレー大学の伝統行事であるアーチセレモニーを行いました。アーチセレモニーでは卒業生がアーチを潜ったあと、合唱曲「旅立ちの日に」及び「仰げば尊し」を日本人留学生在が歌いました。すべてのイベントが終わったあとに、卒業生やその家族とカラオケ・パーティーを行いました。



卒業パーティーでクリスマスソングを歌う学生

キャンパス内外の飲食店及び大学での独自通貨の利用

大学が提供する食事プランには「デリックダラー」と呼ばれる独自通貨が付属しています。デリックダラーは学期のはじめに学生証に食事プランと共に電子的に付与されますが、次学期への繰越を行うことは出来ません。つまり、支給された通貨を学期が終わるまでに使い切る必要があります。そのため、学期末に近づくにつれてリファイナー（フードコート）や近隣のピザ屋を利用する学生が増えます。



日本よりも手頃な価格のピザ

サンクスギビングデー

11月25日にサンクスギビングデー（感謝祭）が全米で執り行われます。この時期にはフィンドレー大学含め、アメリカ国内の学校は一週間ほどの休暇となり、多くの学生が帰省します。私も感謝祭では親戚で集まり、ターキーやマッシュドポテトなど、典型的な料理を楽しみました。他の日本人留学生も友人宅で感謝祭を体験することができ、アメリカの文化的な理解を深めることが出来たと感じていました。



アペタイザー



メインである七面鳥は半日かけて調理



様々な料理がテーブルに並ぶ

期末試験に向けて

サンクスギビングデー休暇の後から本格的に期末試験に向けて勉学に励む学生をいつもより多く見かけます。学生によって休暇中から課題やプレゼンテーションの準備を行っている人もおり、必ずしもゆったりと出来る休暇ではありません。私もスペイン語講義のプレゼンテーションに備えて台本の作成に追われていました。

埼玉県・オハイオ州スカラシップ派遣プログラムにご興味のある方や、フィンドレー大学について詳しく知りたい方は tsukabayashih@findlay.edu にお気軽にご連絡ください。留学や現地の生活についての悩みや不安を解消できればと思います。